

# 企業ニュース 凸版印刷

(東証プライム : 7911) <https://www.toppan.co.jp/>

作成者: 村上大志

## 印刷業界のリーディングカンパニー

印刷テクノロジーをベースに幅広い分野に事業を拡大してきた印刷業界のリーディングカンパニー。現在では情報コミュニケーション、生活・産業、エレクトロニクスの3事業を展開。情報コミュニケーションでは証券類全般や各種帳票などの印刷物に加え、デジタルマーケティングサービスやBPO（業務の外部委託）サービスを手掛ける。生活・産業では食品向け軟包装材料などのパッケージ関連や床材などの建装材関連などを、エレクトロニクスではフォトマスクなどの半導体関連とカラーフィルタなどのディスプレイ関連を手掛ける。空中タッチディスプレイやメタバース上に自分のアバター（分身）を生成するサービスなど、新技術の開発も積極的に行っている。22.3期のセグメント別売上高構成比は情報コミュニケーション58%、生活・産業28%、エレクトロニクス14%。



## 独自のDXサービスを推進、半導体関連も好調継続

22.3期の連結業績は売上高が1兆5,475億円、前期比5%増、営業利益が735億円、同25%増。全セグメントで増収増益を達成し、特にエレクトロニクスが業績をけん引。半導体需要の拡大を受けフォトマスクや高密度半導体パッケージ基板（FC-BGA）などが好調に推移し営業利益は同2.5倍となった。主力の情報コミュニケーションはペーパーメディアの減少をデジタルコンテンツの増加で補ったほか、経済対策案件などBPOサービスが増加した。

23.3期の会社計画は売上高が1兆6,200億円、前期比5%増、営業利益が740億円、同1%増。半導体関連の旺盛な需要の取り込みとDX（デジタルトランスフォーメーション）サービスの拡大を見込む一方で、事業ポートフォリオ変革に向けた費用計上と石化材料などの値上がり影響により微増益の計画。DXサービスは当社が今まで培ってきたデジタルとBPOサービスを組み合わせた継続型受注モデルのサービスを展開しており、売上は既存印刷の規模以上になっている。データ分析からコンサルティングへ領域を拡大することで、さらなる事業規模の拡大が期待される。

### [株価動向・投資判断]

DXサービスと半導体関連を中心に業績拡大が期待できよう。メタバース関連銘柄としても注目したい。

<7911 凸版 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	1,466,935 (▲1)	58,789 (▲11)	58,053 (▲13)	81,997 (▲6)	237.2	40.00
22.3	1,547,533 (5)	73,505 (25)	76,318 (31)	123,182 (50)	365.2	44.00
23.3 予	1,620,000 (5)	74,000 (1)	73,000 (▲4)	43,000 (▲65)	132.1	44.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価 (2022/6/24)	2,264 円
年初来高値 (高値日)	2,482 円 (22/6/7)
同 安値 (安値日)	2,035 円 (22/4/7)
予想 P E R (23.3 予)	17.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	4,089.6 円
P B R	0.55 倍
予想配当利回り	1.94 %
(1株当たり配当金年44.00円)	
R O E (22.3)	9.2 %
発行済み株式数	34,971 万株